

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	熊本県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	熊本県菊池郡大津町立室小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	2	2	3	3	1	17	28
児童数	104	86	71	80	84	82	3	510	

研究の概要

1. 研究主題

基礎学力向上を図る日常授業の改善

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・全学年・国語 すべての学習の基礎となる教科であるため。 ・全学年・算数 児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため。 2・6年生はT T。3・4年生は少人数指導。 ・5～6年生・体育 職員の得意分野を活かした教科担任制で指導するため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 基礎学力が向上する学習システムの工夫 ～国語・算数の教科書指導を中心にして～</p> <p>研究の見通し(仮説) 「読み・書き・計算」を緊張場面を設定した学習システムで指導すれば、児童の基礎学力の向上を図ることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 教師相互で学び合う学校風土の醸成 基礎学力形成を支える学習規律等指導 国語学習システム・音読、漢字、説明文指導のシステム化 算数学習システム・一単位時間のシステム化、指導体制の工夫</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 基礎学力向上を図る日常授業の改善 ～国語・算数の学習システムの工夫と基礎学力向上を支える「環境」づくり～</p> <p>研究の見通し 国語・算数という基礎教科を「緊張場面」と「回数」を確保した学習システムで指導すれば、日常授業が改善され、児童の基礎学力の向上を図ることができるであろう。</p>
--------	--

研究の内容・方法
 教師の授業力向上を図る校内研修の工夫
 算数のT T指導・少人数指導の在り方。
 算数各学期末の習熟度別少人数指導（各学期の復習）
 体育科を中心とした教科担任制の在り方。
 学習システムの工夫（学習用具、音読、漢字、説明文、計算習熟）
 学力向上を支える環境づくり（生活習慣改善、コミュニケーション能力
 育成と仲間づくり、作文力向上、算数教材開発）

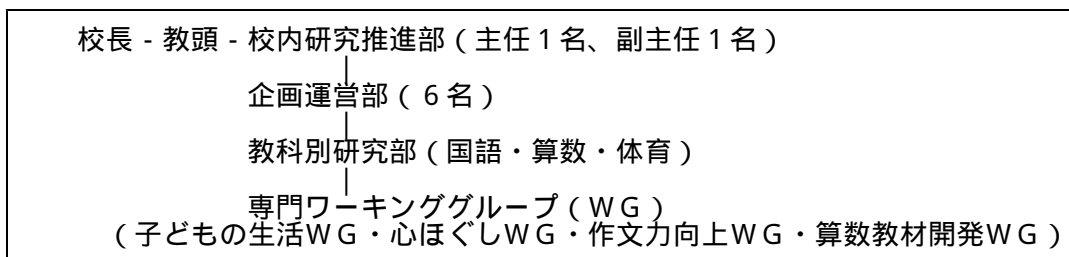
平成
16
年度

テーマ
 基礎学力向上を図る日常授業の改善
 ～教師の授業力向上に支えられた指導体制の工夫、他～

研究の見通し
 教師の授業力向上を図る研修を行いながら、「緊張場面」と「回数」を
 確保した学習システムで指導すれば、日常授業が改善され、児童の基礎学
 力の向上を図ることができるであろう。

研究の内容・方法
 （平成14・15年度の内容に加え）
 教師の授業力向上を図る外部講師による模擬授業研修
 基礎学力向上を図る学習システムの国語・算数日常指導マニュアル作成
 教師の得意分野を活かした教科担任制（高学年体育を中心に）
 より効果的な算数少人数指導・T T指導のための年間指導計画等

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

学校研究としては基礎学力に重点を置き、単元指導の前半は学習システムを
 「徹底指導」してきた。そのことにより単元終末に取り組む「能動型学習」の
 成果も上がっているという指導者の実感がある。
 「基礎を学び、その上に応用を学ぶ」という流れが、子どもの自然な学習の
 流れに合致している。

標準学力検査（国語・算数）の結果として、僅かではあるが児童の学力向上
 が確認できる。
 研究取り組み前の平成13年度と研究途上の平成14年度の結果を比較する。

検査名	学校平均偏差値	標準偏差
平成13年度DRT	国語 49.3	10.3
	算数 50.2	10.2
	総合 50.1	9.3
平成14年度NRT	国語 49.9	9.8
	算数 50.9	10.4
	総合 50.7	9.2

14年度NRT診断結果より

総合学力平均は僅かではあるが標準を上回っており、全体的傾向としては一応学校の平均的水準には達したといえる。

学業促進的である児童は4割程度と多く、全体的に学習への構えは良好であるといえる。

学業不振と思われる児童は、理論比の2分の1と、不振児は少ないといえる。

成就値分布は、高きに偏った学校となった。

平均偏差値は上昇し、標準偏差が僅かながら小さくなった。学習の厳しい状況にある子どもの学力が向上したのは、学習システムによる日常授業改善が功を奏したものと考える。

少人数指導など算数指導体制の工夫により、次のような効果を実感することができた。一人一人へのノート指導の徹底とつまずきの把握が図られた。学習内容がよく定着した。多くの児童へ賞賛や励ましの言葉かけができた。児童の発言や板書説明などの機会を増やすことができた。

2. 今後の課題

標準学力検査結果によると総合学力において、学年間の差がある。低い学年へのなお一層の効果的な取り組みが必要である。

算数での少人数指導においては次の課題がある。

- (1) 少人数指導における指導教師間での「指導目標・評価規準・指導内容・進捗等」確認の時間等確保。
- (2) 少人数指導教員が出張等で授業担当できないときの対応。
- (3) 実際の教室での授業方法。(単に学習集団の人数を少人数にすれば、成果(学力)が上がるのではない。授業方法の改善・指導者の力量の向上が不可欠である。)
- (5) 習熟度別指導を行う場合、「我が子の学力が伸びた」という事実で保護者の納得を得ること。
- (6) 習熟度別指導の際の担当指導教師の配置法。

各ワーキンググループの研究の成果が上がっている。現在、それぞれの成果を全校的取組に広めている途上である。来年度は年度当初から学校全体で機能していくようにする必要がある

児童の学力向上のためには「教材」、「指導法(技術)」、さらにそれを使いこなす教師の「技能」が必要である。私たちには学習システムを指導・運用する技能をはじめ、授業の総合力が不足していることが、外部講師招聘研修から自覚された。

日常授業改善の視点から教師の時間意識についてもさらなる変容の余地がある。私たち教師自身の授業力の向上が最大の課題である。

学力等把握のための学校としての取組

基礎学力7項目全校調査(国語・算数到達度、視写速度、かけ算九九、前学年の漢字、前学年までの四則計算、音読)年度初めに実施。

標準学力検査(NRT)年度末に実施。

到達度評価問題(熊本県ゆうチャレンジ)2学期末に実施

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・熊本県学力向上推進協議会
- ・菊池郡市学力向上推進協議会
- ・大津町学力向上推進協議会
- ・大津町学校教育の日（毎月14日）授業公開
- ・本校HPにて中間発表予定
- ・平成16年11月頃研究発表会実施予定
- ・フロンティアティーチャーとして菊池郡合志町の学力向上会議で成果発表（平成15年）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無